

[認知症対応型共同生活介護用]

[認知症対応型共同生活介護用]

## 1. 評価報告概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4071900791
法人名	(有)西日本在宅介護センター
事業所名	グループホーム 見立
所在地	田川市大字弓削田3151番地の1 (電話) 0947-42-8817

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん		
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号		
訪問調査日	2007年6月9日	評価確定日	2007年7月23日

【情報提供項目より】(19年5月29日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14 年 9 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 4 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 5.4 人	

## (2) 建物概要

建物構造	木造モルタル 造り
	2 階建ての 階 ~ 1 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	20,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円
敷金	有( 円)	無 ○	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 無料 円
	または1日当たり	1,000 円	

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

登録人数	8 名	男性 0 名	女性 8 名
要介護1	1	要介護2	2
要介護3	3	要介護4	1
要介護5	1	要支援2	
年齢	平均 89 歳	最低 70 歳	最高 101 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 田中医院
---------	-----------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改造・増築したグループホーム見立は、入居者である以前の家主の表札も掲げ、看板を見なければグループホームとは判らないほど、家庭的な環境を大切にした地域に溶け込んだホームである。運営者は地域消防団員として防災等で地域に貢献しており、「地域住民と共にホームを運営する」を理念に掲げ、地域密着型サービスとして地域での役割づくりに取り組もうとしている。開所5年であるが、入居者の重度化に伴い看取りを行っており、今後は「重度化やターミナル時の方針」を整備し、かかりつけ医・協力医療機関との議事録や支援経過記録等の整備を行う予定である。管理者は職員が丸となった看取りの経験から、現在入居している重度の方々とお互いに緩やかに一日を過ごし、ホームを「終の住みか」として係わりたいと話している。中庭にある家庭菜園を活用して、入居者から野菜づくりや食材としての利用法を教えてもらったり、日々の生活でのふれあいで共に支えあう関係づくりを行っている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価を活かし改善に向けた以下の積極的な取り組みがある。重要事項説明書にも入居者の権利・義務を記載している。運営推進会議を開催し、ホームの運営方針等を行政・地域の方にお知らせしている。高齢・重度の入居者が多いため避難訓練はしていないが、避難経路図の掲示・説明をしている。手作りの日めくりカレンダーは利用者と一緒に毎日かけ替えている。フェースシートやアセスメント表を整備している。職員の段階に応じた研修計画が一部実行している。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者・常勤者及び非常勤者で、話し合いや検討し作成している。
重点項目③	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4、5、6)
	運営推進会議の意義は運営者・管理者ともに理解していたが、推進委員の選定等に時間を要している。開催目的・関係機関からの推進委員の選定等を明記した運営推進会議規約書を整備し、今回第一回目を開催している。会議ではホームの現状と外部評価の説明、推進委員の紹介後、意見交換をしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7、8)
	毎月・隔月、家族にホーム内の生活状況や本人の身体状況などを記載した書面を送付している。家族訪問時、管理者や常勤者は家族との面談で、近況報告や家族よりの意見や苦情の情報収集に心がけている。今後は、「ホーム便り」等の作成に家族の関わりをお願いすることで、意見や苦情の伝え易い関係作りが望まれる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会や老人会への加入は無いが、老人会主催の花見等の催しものには同法人運営の通所介護とともに参加している。ホームを介護サービス事業所や福祉高等学校の研修の場として提供している。今後は定期的な運営推進会議の開催を通じて、地域に密着したホームづくりが望まれる。

## 2. 評価報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	運営理念の明確な記載があり、利用者・家族が分かり易く見やすい位置に掲示し、職員は理念を自分の言葉で語ることが出来る。運営推進委員会議を実施し意見を活用している。	○	地域密着型サービスなので、パンフレットや重要事項説明書に「地域住民との交流の下で……」等の記載が望まれる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日頃より申し送りや会議の場で理念を共有する内容を話しあい、実践に役立っている。認知症の利用者を自分の親と思い、仕事としての関わりでなく家族として大切に思いやりを持って取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営者は地元消防団員として地域に貢献している。介護事業所の研修や高校生の研修を受け入れているが、入居者が重度化したこともあり、地域活動への参加はない。	○	同法人運営の通所介護と地域老人会が共催している花見に、今後はグループホームも参加する意向なので、是非実行を願いたい。
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	改善が必要な項目はそれぞれの会議や話し合いで改善に取り組み、成果を出している。改善に向けた取り組みは、改善シートを利用し、改善過程が分かるようにチェックしながら取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議が開催され、運営規程にそった適切なメンバーの参加があり、会議録も整備されている。2ヶ月毎の会議開催を運営規程に明記している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政とは、書類の提出時に色々話を聞いたり、意見を伝えている。行政からの介護教室(認知症)の委託などは無いが、いつでも要請があれば応じる意志がある。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者と職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会をもち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれを活用できるように取り組んでいる。	現在、成年後見制度を利用している入居者も居り、他の利用者についても説明や運用ができるように地域権利擁護や成年後見制度のパンフレット等必要な書類は整備されている。	○	現在、成年後見制度利用者もいるので、全職員に制度の周知を図るために研修を企画していただきたい。又、成年後見制度運用の経過に記録が望まれる。
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族に一月おきに封書で、本人の近況を記載しお知らせしている。今後は送付の時に写真も添えて元気な所を見て頂く予定である。小遣い帳は、職員2名の確認印で管理されているが、単身者の金銭管理は成年後見制度などの活用も視野に入れている。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	設置した苦情箱への苦情の提出は無いが、家族の意見は訪問時に伺い、また運営推進会議などで家族に意見を求め、運営に活かしている。	○	ホーム内に県の苦情相談窓口の記載があるポスターの掲示があるので、重要事項説明書等にも行政機関の意見苦情相談窓口の記載をお願いしたい。
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	ホームの職員は同法人運営の介護サービス事業から派遣された非常勤職員が多いが、退職者が無いので入居者と馴染みの関係が継続している。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表及び管理者は職員の募集・採用にあたっては性別や年齢を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮し生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。	退職者が無いので、新規職員採用が無いが、採用する場合は、理念の理解し実践できる方を採用する意向である。職員の能力を發揮できるように職員同士で話し合いに勤めている。服務規程、就業規定等が整備され雇用契約書も取り交わされている。職員は休憩時間は決めてないが、お互いに勤務の中で取っている。休憩室の確保がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。	管理者は職員に人権に対する考え方を申し送りや会議で伝えている。入居者の考えやプライバシーは尊重しているが、身体拘束虐待防止マニュアルがない。	○	行政が発行するパンフレットなどを利用し、人権教育・啓発に取り組んで頂きたい。又、身体拘束虐待防止マニュアルの作成整備が望まれる。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を立てても未完で終わる為、出来るだけ仕事時にトレーニングするようにしている。非常勤職員の研修計画がなく、伝達講習の時間も確保できないので、資料を配布し自己研鑽を促している。職員の悩み等には管理者が対応している。	○	年間研修計画を作成し、非常勤職員にもグループホーム協議会主催の研修参加を促したり、伝達研修で職員を育てる取り組みをお願いしたい。又、ホーム外のスーパーバイザーの検討もお願いしたい
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム協議会に加入し、研修等に参加している。運営者は今年度から、管理者が外部にも目を向け積極的に情報を取り入れられるように、フリーの勤務体制にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	グループホーム入居以前、在宅でホームの職員がヘルパーとして関わっていた入居者が多く、馴染みの関係が継続している。その他の入居者は、介護支援専門員の情報に沿った対応で慣れて頂いている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	言葉掛けや調理の味付け・方法、季節にあった野菜の植え付け・食材としての知識など、入居者との関わりの中で教えられる事がたくさんあり、お互いに共に過ごし支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	不満がある方には話を聞き、どうしたら満足できるか入居者とともに対策を練るようにしている。生活歴や職歴の情報アセスメントは出来ているが、今後は個別性な週間予定表を作成し、経時的援助を実施する予定である。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	家族の来訪が少なく電話での対応が多く、介護計画等の話し合いをしていない。生活歴や職歴の情報等のアセスメントはあるが、本人・家族の要望の記載がない。	○	本人家族の要望はフェースシート・居宅サービス計画書第1表に記載が求められる。計画の見直し時期にはモニタリングの内容を整備し、担当者会議に生かしていただきたい。介護計画は達成可能な課題からケアに取り組み、ケア内容やモニタリングを支援経過へ記載することが望まれる。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画はモニタリング後見直しをしている。来訪できない家族には介護計画書を郵送し、確認印をお願いし返送して頂いている。介護計画の見直しは常勤者と午後の勤務者で行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族の要望に応じ、受診の移送は同法人の事業である介護タクシーを無料で提供している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	眼科受診を支援したり、協力医療機関から2週間に1度の往診がある。医療受診内容は詳細に記録し、家族からの電話や家族への封書による近況報告時に伝えている。	○	個別介護日誌に主治医や協力医療機関の受診情報や家族への受診結果報告の記載をお願いしたい。
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看護記録には往診内容や状況が記載され、家族との話し合いの内容は申し送りしている。看取りを行っているが、経時記録がない。	○	「重度化した場合における対応にかかる方針」を利用者に説明して書面にて同意を得て、重度化、終末期において家族、主治医、看護師、全職員によるターミナル計画書の作成が望まれる。看護記録と支援経過記録の連動や主治医と家族・スタッフとの話し合いの内容を議事録として整備する事で、各自方針を共有できるように配慮願いたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護規程を掲示している。管理者はプライバシーの保護を職員に申し送りや会議等で伝え、職員は入居者への言葉掛けや関り方に配慮している。今後は研修会参加や行政から配付されたパンフレットを利用した研修会も実施する予定である。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	重度の入居者が多くケアに時間が掛かるが、手を出さずに見守りながら誘導している。献立など一応決めているが、入居者のアドバイスを得ながら一緒にたてている。入居者の精神状態の変動も有るが、できるだけゆっくりと過ごせるように支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の心身の状態の応じて食事の準備や片づけを一緒に行い、出来る事を喜んだり楽しんだりしていただいている。重度な入居者が多く食事援助や見守りが必要なため、職員が伴食するのは難しい状況であるが、朝食は伴食している。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	月曜日・金曜日は一日何時でも入浴できるように準備している。入浴を拒否される入居者がいるので、毎日いつでも入浴出来るように配慮している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	豆の皮むきやフキのすじとり、手拭たたみ等、各入居者に出来る事をお願いしている。園芸に関しては時期物を教えて頂き、苗の植え付けをしている。洗濯の好きな人は洗濯機を使って洗物を支援している。歌を歌ったり中庭でおやつを食べたり楽しみ事の支援、できることの配慮に心がけている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	車椅子や歩行器が必要な重度の入居者が多く、ホーム外の外出が難しく、本人の状況に応じて中庭での散歩が多いが、中庭では四季に応じて自然があり楽しめている。	○	外出する機会を入居者と共に考え、できる事から取り組んで頂きたい。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	運営者、職員は「鍵を掛けない。圧迫感を与えない。安心・穏やかな気持ちに成ってもらう。家庭と同じである」との考えで、施錠をしていない。無断外出への対応として、職員の見守り体制づくりや近所の方に協力を依頼したり、玄関にセンサーを設置している。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難経路図をホーム内に2箇所掲示している。運営者が地元消防団に所属しているので、消火器を設置し、井戸水の確保したり、停電等の非常災害時の対応等に熟知している。乾パンやカップヌードルなども備蓄もある。	○	消防署による防災や避難訓練などを、入居者と共に行い安全の確保に配慮願いたい。非常災害用の備蓄の工夫が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>1日1500～1600kカロリの摂取を目安にしているので、摂取カロリーが不足する場合は、10時と午後のおやつで工夫したり、栄養バランスを考えて食材を選んでいる。夜間帯は水分摂取量をチェックし、昼間は食事に折りにコップ3杯の水分摂取を促している。水分摂取できない重度の入居者には主治医の指示で輸液している。体重は毎週入浴時に測定したり、好き嫌いや咀嚼、嚥下状態をアセスメントし、栄養状態をマネジメントしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>民家を改造したホームで共用の空間は家庭的そのものである。廊下、居室の採光はカーテンやブラインドで工夫されてる。玄関の生け花やで作った鯉のぼりの飾り、また庭の木々や花等で季節を感じる事が出来る。</p>		
33	85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室はベットを使用しているが、利用者の好みの物が置かれその人らしい居室づくりをしている。</p>		